



いけがや ゆうた

●1983年(昭和58年)12月24日生まれの31歳。坂部区で茶・レタス・米を生産する専業農家。市の若者会議「茶々若会」や地区のまちづくり事業などで活躍中。趣味はサッカー・フットサル・スノーボードなど。坂部区在住。

茶々若会 会長 池ヶ谷 祐太さん



幸福の種を蒔き、地域の元気を育む

まきびと No.9

「一歩」踏み出せば 世界が変わる

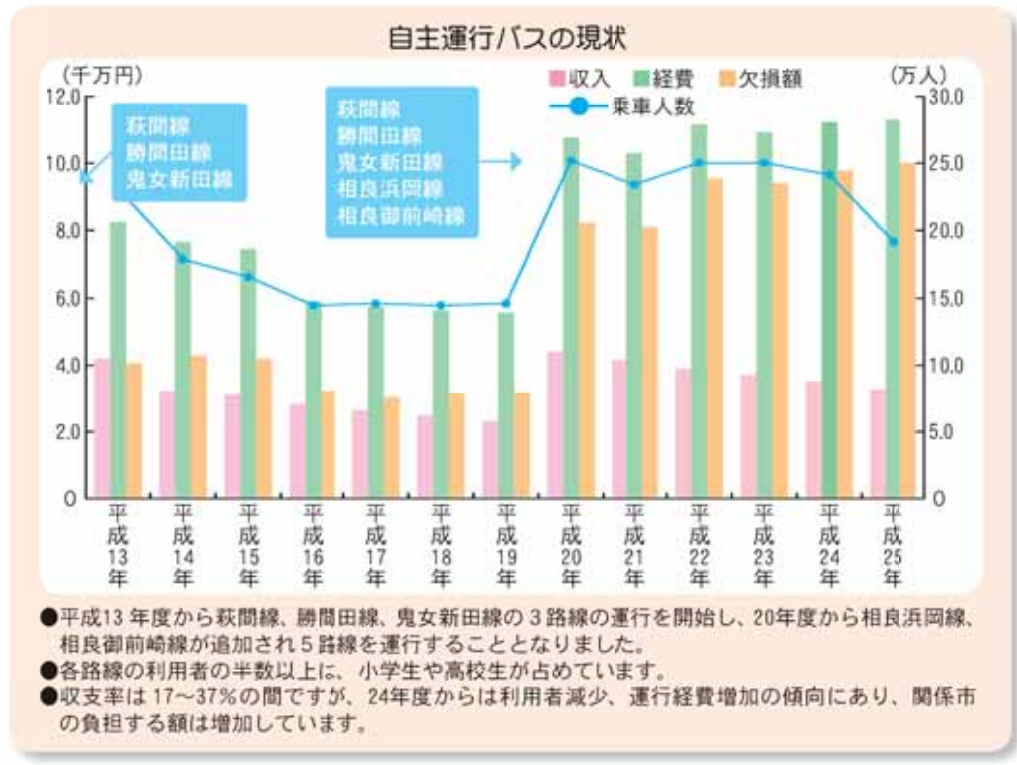
池ヶ谷さんは、昨年5月から30代の若者がまちづくりについて学ぶ「茶々若会」の会長として活躍しています。「茶々若会」の活動について池ヶ谷さんは、「まちづくりに必要な会議の進め方などの技術を習得できた。来年度取り組む各地区の計画づくりに生かすなど、自分たちの力が少しでも地域のためになるように頑張りたい」と語ってくれました。

また、「茶々若会に参加したことで自分の世界が広がった。普段生活していたら付き会えない人たちともつながりができた。一歩踏み出したことでさまざまなものが見えてきて楽しい」と会の魅力を話します。

市内の高校を卒業後、東京都内の大学に進学した池ヶ谷さんは、建築について学び、県内の建築会社に就職。県外の支店に6年間勤めた後、30



会議の内容を説明する池ヶ谷さん



バスが走っていないなど、さまざまな要因が重なっているのではないかと考えられます。現在、本市においても利用者数の状況から、自主運行バス路線を縮小や廃止の検討が必要な事態に直面しています。

自主運行バスは、通学や病院、買い物などでの重要な移動手段であり、欠かせない地域の足です。今後、高齢化に伴う運転免許証返納の増加や環境負荷の軽減など、バスをはじめとする公共交通の重要性はますます高まるものと考えられます。

しかしながら、市の自主運行バスに対する財政負担は急激に増加し、税金で維持するには限界があります。バスの利用者がなければ、廃止路線となりかねません。

バス路線を維持するために、市民のみならずバスを積極的に利用していく必要があります。

バスを利用するには運行時間に合わせた生活・行動パターンを心掛けなければなりません。

「バス路線の維持には皆さんの利用が必要です」

新交通検討会議の発足

今年の1月から、市民の代表や有識者と行政が一体となって、地域の实情に即した交通を検討する新交通検討会議が発足しました。

この会議では、公共交通空白地域の解消のための方法やより使いやすい今後を見据えた将来の交通形態を検討していきます。

しかし、交通形態を見直しすれば、それで全ての課題が解決されるのでしょうか。

将来にわたり、公共交通を確保していくためには、利用者の皆さんが使う場を作っていくこと、そして利用者である皆さんが実際に利用することが必要です。

なぜ利用者は減少しているのか

自主運行バスは、市民の皆さんにとって、欠くことができない通勤や通学の重要な移動手段です。しかし利用者は著しく減少しています。これは、自家用車依存の高まりや少子化による学生の減少、スクールバス、企業が運行するバスの増加、使いたい時間に

